

えひめ



松山港高浜地区



松山港吉田浜地区～高浜地区

■ 特集 松山港近代化100周年記念シンポジウム

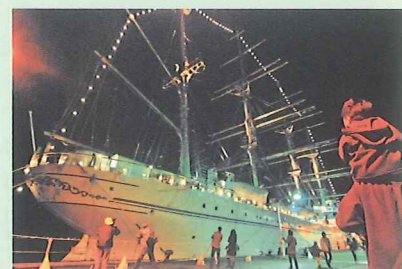
松山港近代化の歩みとまちの発展

みなとオアシス八幡浜・伯方 秋から冬の取り組み
事業現場から報告
高浜開港百周年記念イベント ～アラカルト～

「海王丸」イルミネーション



松山港外港地区
新埠頭コンテナターミナル



■特集 松山港近代化一〇〇周年記念シンポジウム

松山港近代化の歩みとまちの発展

一〇〇年前から現在までの松山港の歴史をたどり、将来の姿を市民とともに展望する公開シンポジウムを平成18年12月2日、開催しました。



パネルディスカッションで行われたアンケートに赤白の色紙で答える観客の様子。壇上と観客席と、会場一体となって松山港の今後のあり方を思い描いた。



松山港近代化一〇〇年

節目の年を迎えて

港は産業や商業の発達を促し、

まちの発展を支えてきました。

松山港築港史上のエポックとも

いえる、商船に対応した本格的

な港湾施設が現在の高浜地区に

完成したのは一九〇六年（明治

三九年）。それから数えて一〇〇

周年を迎える今年、松山港の歩

みを振り返り、今後もまちの発

展に貢献する港をめざして、将

来の姿を市民の皆様と一緒に展

望する公開シンポジウムを5団

体（愛媛県、松山市、愛媛新聞社、

松山観光港ターミナル（株）、N

PO法人四国みなとまち倶楽部）

の後援を得て、平成18年12月2

日、松山市立子規記念博物館で

開催しました。

シンポジウム概要

当日はあいにくの曇天にもか

かわらず、定員四〇〇人を超え

る方々にご来場いただきました。

開会にあたり、国土交通省四

国地方整備局次長 矢下 忠彦

より主催者挨拶を述べたあと、

ご来賓で海事振興連盟会長も務

める参議院議員 関谷 勝嗣氏

と国土交通省大臣官房技術参事

官 林田 博氏よりお言葉を、

また国土交通大臣政務官 藤野

公孝氏からお祝いのメッセージ

をいただきました。

続く講演では映画監督磯村

一路氏が登場、観衆は舞台に映

し出される氏の映像を見つめな

から、インタビュー形式で語ら

れる海や港の映像に対する氏の

造詣の深さにじつと耳を傾けて

いました。

講演の後はパネルディスカッ

ションへと進み、その前段とし

て松山港の歴史をスライドで紹

介し、港に関する意識アンケー

トを行いました。

パネルディスカッションには

コーディネーターに一色 昭造

氏、パネリストに各界から山野

芳幸氏、飯尾 典治氏、曾我部

礼子氏、磯貝 政弘氏を迎え、

松山港が人々の暮らしに果たし

てきた役割や現状の課題、そし

て今後の都市形成において松山

港はどうあるべきかについて示

唆に富むご意見をいただきました。

最後に一色氏が「一〇〇年

前の先人は松山港近代化の礎を築いた。我々も一〇〇年後の人々に感謝される港を残す必要がある。」としめくくり、シンポジウムは終了しました。

パネルディスカッションでは郷土の歴史や地理の著作でも知られる山野氏から海運の歴史や海の文化について紹介され、飯尾氏はジャーナリスティックな視点から松山港とその周辺の出来事について戦後の復興から現在の発展まで語ってくださいました。また、曾我部氏と磯貝氏は観光資源としての港の振興について語られ、当局が設置し、港の景観・観光を考える「四国の魅力あるまちづくり懇談会」の委員でもある曾我部氏からは既存の資源の良さの再認識と、「おせたい」に代表されるもてなしのこころの大切さが述べられました。磯貝氏からは観光をプロデュースするうえでの着眼点について述べられ、「まず市民にもっと足を運んでもらえる港に。」とご意見をいただきました。

時計の後ろの建物が会場となった松山市立子規記念博物館。初冬の景色とともに目にはいつく郷土の俳人正岡子規の句が来る人に風情を伝える。



来賓・主催者 挨拶

来賓 海事振興連盟会長 参議院議員 関谷 勝嗣氏

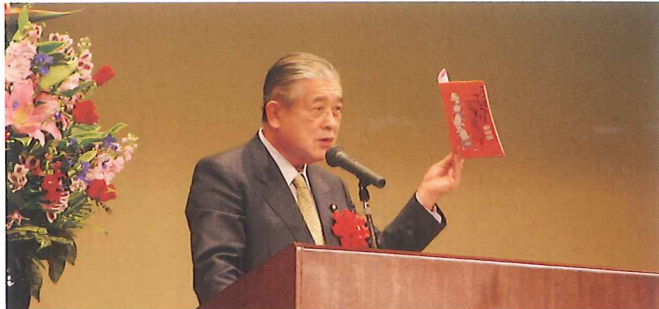
「私も三津浜に住んでいる者の一人。三津浜に生まれたことを感謝している。」と関谷氏。三津浜周辺の風物について小学生の頃からの思い出に始まり、「現在海外との海上輸送においてハブ港としての役割を担う松山港が、そのメリットを生かし、松山の、四国の地域振興に寄与し、人の賑わうまちに。」と期待を語ってくださいました。（氏の左手の冊子は三津浜～高浜をガイドする『ぶらり三津浜マップ』（企画・制作 ぶらり三津浜マップ制作委員会、監修 山野 芳幸））

来賓 国土交通省 大臣官房 技術参事官 林田 博氏

「新しい国土形成計画を進めるうえで、東アジア地域との連携は重要で、これらの地域の港湾との間に定期航路で結ばれている松山港の役割は大きい。松山港（外港地区）の整備について事業者として早期完成を目指すとともに、このシンポジウムが松山港の発展を考える契機になって欲しい。」と述べられました。

主催者 国土交通省 四国地方整備局 次長 矢下 忠彦

松山港の歩みを紹介しながら、今日のシンポジウムの開催の目的や企画について紹介し、「このシンポジウムを通じて、皆様と一緒に港とまちのその関わりについて考え、港の魅力を再発見していただく機会になることを願っています。」と挨拶。



講演 映画監督 磯村 一路氏

『がんばっていきまっしょい』『船を降りたら彼女の島』など愛媛の海を背景にした映画も撮られた磯村監督。「初めて海を見たのは小学生の時で、宇高連絡船から見た瀬戸内海でした。きれいでした。」と原風景の海に始まり、ご自身の代表作のダイジェストを客席のみなさんと一緒に見ながら制作過程についてお話ししてくださいました。また、海を舞台にした米・英・仏のいにしえの名画から現代劇まで紹介してください、懐かしく聴いた方も多かったはず。「港をイメージするとき、映画がお役に立てればと、思っています。」「映画に携わる者として、経済的側面一辺倒でない、生活に根ざしたみなどづくりをし、映画で撮れるみなどをめざして欲しい。」と示唆されました。

客席の上西 隆広四国地方整備局港湾空港部部長から「港湾に対する理解を増やす取り組みを今後も。」とのコメントが。



写真向かって右が磯村 一路監督。左は司会でインタビュアーの江刺 伯洋氏。

写真向かって左より、コーディネーターの一色 昭造氏（松山観光港ターミナル（株）社長、日本旅客船協会副会長）、パネリストの山野 芳幸氏（愛媛県生涯学習推進講師、元松山市教育委員会委員長）、飯尾 典治氏（愛媛新聞社総務兼編集委員室長）、曾我部 礼子氏（（有）能力開発システム研究所取締役会長 人材育成推進室長）、磯貝 政弘氏（（株）ツーリズム・マーケティング研究所首席研究員）



パネルディスカッション

ともに

港からまちの振興をめざして

「みなとオアシス」は港を中心として地域振興を行っている施設や地域のことです。現在愛媛県下では八幡浜港と枝越港がこの制度に登録し、官民共同参画でその取り組みが行われています。当所では、これらの取り組みをサポートするよう努めています。



写真4点とも「八幡浜みなとオアシス登録1周年記念イベント」。1.挨拶をする「八幡浜みなとまちづくり協議会」の谷本会長。2.「四国のみなとオアシス交流物産展」では県立八幡浜高等学校商業研究部「A★KIND」のみなさんが運営をアシスト。3.「小松島みなとオアシス」を運営する「NPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま」も出展、小松島の味覚を届けてくれた。4.「海鮮朝市」会場前で物産を味わう人々。(写真2・写真4は四国地方整備局小松島港湾・空港整備事務所より提供。)



八幡浜港登録1周年

八幡浜港では旧魚市場隣で、「やわたま海鮮朝市」の開催日（毎月第2日曜日）に合わせ、10月8日「八幡浜みなとオアシス登録1周年記念イベント」が開催されました。

生鮮魚介や加工品等の販売を中心とした定番企画や、「小松島みなとオアシス」の運営を行う「NPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま」の方々による地場産品の販売、今回四国初の試みとして四国のみなとオアシスのうち5港の物産を販売する「交流物産展」が県立八幡浜高等学校の商業研究部「A★KIND」の協力を得て開かれ、また、旧保内町の歴史



写真右3点とも八幡浜市役所より提供：「ぼしっふいっくひいなす」が11月9日八幡浜港に入港。「八幡浜みなとまちづくり協議会」のみなさんが見学に訪れ、クルーの方々と交流した。大漁旗による歓迎と送迎も。漁業のまち、八幡浜らしい。

的建造物を訪ね歩く「船で行くレトロな町並み散策ツアー」も催されました。そのほか、県立八幡浜工業高等学校によるロボット展示や各市民団体によるブースも多々軒を並べるなどにぎやかに開催されました。

同「朝市」企画・運営に携わる八幡浜市水産港湾課によると、県外客も含めて約八、〇〇〇人の人々が訪れたそうです。

町並み散策ツアーの参加者を含め、八幡浜港を出発した旅客船が川之石港に到着した様子。



交流と相互協力と新たな活路への取り組み

港からの地域振興に取り組む「みなとオアシス」の関係者らが情報交換と連携を目的に、「中国みなとオアシス協議会」「四国みなとオアシス協議会」の設立総会が10月12日、高知県安芸郡奈半利町において開催され、愛媛県内からも「八幡浜港みなとまちづくり協議会」と「みなとオアシス伯

12月5日に開催された八幡浜港におけるワークショップの様子。(写真提供：八幡浜市役所)



方住民懇談会」の方々に参加しました。各オアシスから運営の報告や課題などについて意見交換が行われました。

翌13日は、「みなとオアシス奈半利」において「サンゴウオッチング」や古民家の見学も行われ、見聞を広め、親睦を深めました。そして昨秋は、各みなとオアシスにおいてイベントの開催時に互いに出席し合い、共に事業振興を図る試みも多くみられました。

まず、10月8日の「八幡浜港みなとオアシス登録1周年記念イベント」に「小松島みなとオアシス」を運営する「NPO法人港まちづくりファンタジー

ハーバーこまつしま」の方々、11月12日には「みなとオアシス伯方」を運営する「みなとオアシス伯方住民懇談会」の方々、「みなとオアシス瀬戸田」(尾道市瀬戸田町)で開催された「汐待市」に出展、12月10日には「八幡浜港みなとまちづくり協議会」の方々、「小松島みなとオアシス」で開催された「第2回こまつしまうまいもん祭り」に出展しました。

国土交通省ではこのような港からの地域振興を支援し、ワークショップにも参画しています。12月5日には八幡浜港において観光の側面から地域振興を図るワークショップが開催されました。

このワークショップは「八幡浜港みなとまちづくり協議会」の方々を始め、地域のボランティアの代表者や、港の景観・観光などを考える「四国の魅力あるみなとづくり懇談会」の委員や四国地方整備局が参加し、昨年度、同懇談会が八幡浜港を対象に実施した「み

なと観光診断」のアンケートと分析結果をもとに、同港の観光資源の活用方法や事業展開に必要な媒体や施設の整備について検討が進められました。また、同協議会では12月上旬、瀬戸

「第2回こまつしまうまいもん祭り」に出展する「八幡浜港みなとまちづくり協議会」のみなさん。八幡浜名物「じゃこ天」が実演販売された。(写真提供：四国地方整備局小松島港湾・空港整備事務所)



「みなとオアシス瀬戸田」とその周辺で開催された「汐待市」に出展中の「みなとオアシス伯方住民懇談会」のみなさん。(写真提供：尾道市役所瀬戸田支所)

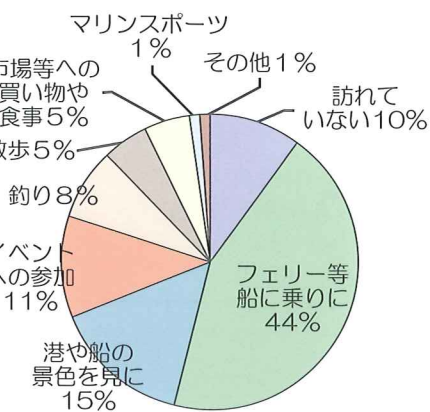


内海の沿岸地域の官公庁らで組織するな足取りを見させています。

松山港近代化100周年記念シンポジウム 会場アンケート結果

アンケートの回答者は合計203人

仕事以外で松山港を訪れたことがありますか？また、その目的は？



年齢については20代から70代以上の方までご来場いただき、一番多いのが50代の37%、60代・40代がそれぞれ約20%ずつ。お住まいは松山市内が61%と最も多く、県内では今治市・東温市から、遠くは高松市からお越しくださいました。職業は会社員が55%を占め、ついで公務員22%、主婦、自営業と続き、1%ですが学生も。幅広い年齢層と、社会的役割をお持ちの方々にご来場いただきました。



シンポジウム会場入口に設けられた写真展には開場後も名残を惜しむかのように観覧する人々が訪れた。

このシンポジウムに参加して、今後松山港に望まれる姿は？(複数回答)

まつりや憩いの場 21%
まちづくりの拠点となるにぎわいの場 21%

松山と各地を結ぶ交通拠点 26%

産業を支える物流拠点 21%

離島を結ぶ人々の生活の拠点 11%

仕事以外に松山港を利用した方は9割。利用目的のパーセンテージはその9割の方の複数回答311件を分類したものです。将来像に関する回答数はのべ359件。従来の交通や物流機能に加えて、レクリエーションやイベントなどで利用できる親水性のある場づくりも望まれているようです。

八幡浜港を望む。写真中央の青い屋根の上屋が「海鮮朝市」の会場。



事業現場から報告

昨秋から初冬にかけて当所が整備を進める港湾施設や海岸防災施設、海面清掃兼油回収船「いしづち」の見学に県下の小中学生が訪れました。見学会の様子と現場の今をレポートします。

海面清掃兼油回収船「いしづち」見学会

海面清掃兼油回収船「いしづち」は瀬戸内海のひうち灘から



写真上：「いしづち」船内を見学する北条南中学校のみなさん。ゴミ回収を行う装置の説明を受けているところ。写真下：松山港海岸和気地区で現在開放中の和気浜側の堤防のステージ部にて。前面に分布するコアモの保全についてもお話ししました。

伊予灘の二、八〇〇キロ平方メートルの海域に漂うごみや油を回収しています。海洋環境の学習のため、10月26日、松山市立北条南中学校3年生17名が当所を訪問しました。まず、職員が海面清掃の仕事について、ビデオを交えて説明した



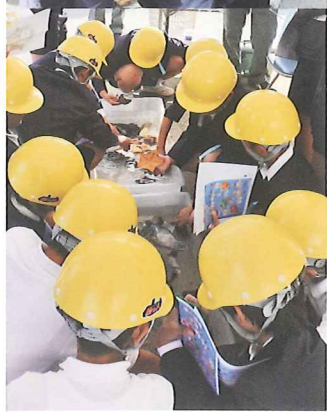
後、船内に案内しました。日常見慣れない船の構造や装備を興味深く見学し、回収装置を目的の当たりにした生徒からは、ごみの回収量や種類などについて活発な質問がなされ、熱心にメモをとり、映像に収める姿も見られました。



「いしづち」見学を終え、当所棧橋を渡る北条南中学校のみなさん。

松山港海岸和気地区和気浜見学会

北条南中学校のみなさんは同海岸も見学しました。現在行われている高潮から背後地を守る堤防や砂浜などの防災施設の改良工事の内容や、工事を進めるに当たり、周辺景観との調和や人々の利用等にも配慮していることを職員からお話ししました。



四国中央市立三島小学校5年生が現場を訪れました。まず、校内で当所、四国中央市、施工業者らが三島川之江港での各々の仕事について説明した後、現場に移動しました。

現場に設けられた4張りのテントでは施工業者らが工事内容についての説明をパネルや模型実験を用いて行いました。防波堤の一部に採用した環境に配慮した施工技術を説明するコーナーでは海洋生物に触れるプールも用意され、初めは珍しそうに観察していた児童も次第に手に取り、歓声をあげていました。

今後このような現場の施工技術を紹介し、土木の仕事を知り、港に親しんでもらえる機会の充実をめざしてまいります。



写真左上：11月の見学会での金子地区の様子。左端手前から奥に伸びるのは護岸の堤体。この日は水深-14m岸壁の前面の泊地予定地に既設する防波堤の撤去工事が行われていた。写真左下：その様子を見学している三島小学校のみなさん。写真右上：海洋生物との共生を目指し延伸中の金子地区防波堤北の施工について高松技調の職員から説明。写真右下：三島川之江港にすむ生物（ナマコ・ヒトデなど）と触れ合う児童ら。

三島川之江港見学会
三島川之江港金子地区では水深マイナス14メートル岸壁1バースとその前面の泊地、これらを波の被害から守る防波堤の整備を進めています。港の役割と工事の様子を見学してもらおうと、11月14日、当

所と施工業者主催、高松港湾空港技術調査事務所と四国中央市の協力のもと、見学会を開催

今治港見学会

今治港富田地区では港内を波から守る防波堤の延伸工事が行われています。

今年度は防波堤の堤体に用いられるケーソン2函の製作・据付を実施し、このうち、2函目の据付日にあわせて、12月14日、(社)日本理立浚渫協会が見学会を主催し、今治市立島生小学校6年生と保護者一〇名が見学会に訪れました。

現場見学に先立ち、校内で当所職員から港の役割や今治港における施設の整備について説明し、施工業者からは工事の施工手順や工種についてお話しした後、クイズも出題され、みな熱心にメモをとっており、ほぼ全



今治港見学会にて。起重機船がケーソン(2,260t)を吊り上げる。

員正解しました。質問コーナーでは児童から防波堤の設計に関する問いもなされ、学習意欲の高さがうかがわれました。

現場に移動するころにはあいにくの小雨となりましたが、起重機船のワイヤーにケーソンの荷重が伝わり始め、「カタン・・・カタン・・・」という音がヤードに響き渡る中、ワイヤーは巻き上げられ、ケーソンが吊り上げられた瞬間には歓声が上がりました。

その後、護岸へと場所を移した一行はその曳航の様子を見学しました。

参加者みな、構造物や重機などのスケールの大きさに感動していた様で、初冬と雨の寒さを忘れる見学会でした。

松山港外港地区新埠頭コンテナターミナル水深マイナス13メートル岸壁整備状況

外港地区では、貨物需要の増大や大型船舶の利用など、港湾利用者からの要望に対応するため、水深マイナス13メートル岸壁を今年度から本格着工していきます。11月には既設堤体の上部工と係船のための付属工の整備を完了し、現在は岸壁の延長のため、岸壁の堤体を形作るケーソンの製作工事等行っています。物流の効率化に資する整備を引き続き行います。



現在、暫定供用中の水深-10m岸壁で荷役が行われる様子。係船中の岸壁の先が水深-13m岸壁。

2006.9.11

高浜開港百周年記念式典



松山観光港ターミナルで開港百周年を記念し、記念碑の除幕式（愛媛県主催）と植樹（高浜開港百周年記念実行委員会主催）が県知事・県議会議員・官公庁・民間事業者・地元から小中学生や関係者など約70名（※2）が列席し、行われました。

松山港高浜地区は現在、関西・九州地方へと旅客を運ぶフェリーの発着港として利用されています。昨年は一、二七四、七七一（※1）の乗降客に利用されました。昨秋開催された数々の記念イベントの中からダイジェストでご紹介します。

松山市堀江浜沖で行われた訓練には航空機1機と船艇2隻が参加。高速機動訓練や人命救助訓練が行われ、船上の見学者991名（※3）から盛んな拍手が送られました。



海上保安庁 巡視船「こじま」の入港式典と訓練を一般公開する体験航海が行われました。

2006.9.16

巡視船「こじま」体験航海



（独）航海訓練所 練習船「海王丸」が初寄港。写真は同所の職員と実習生をお迎えして開催した入港式典の様子。入港期間中、セイルドリルや船内の一般公開などが行われ期間中約1万1千人（※4）が訪れました。



2006.11.25 ~ 29

練習船「海王丸」寄港

キャプション中の値は以下へのヒアリングによる※1 松山市空港港湾課松山港務所、※2・4 松山観光港ターミナル(株)、※3 松山海上保安部

所長挨拶

松山港湾・空港整備事務所所長 岡林 昭夫

皆様新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。皆様にとって、昨年ほどのような一年でしたでしょうか。

本号は、昨秋から初冬にかけて開催しましたイベント等について特集しました。巻頭で紹介しましたシンポジウムは高浜港（現在の松山港高浜地区）が築港一〇〇周年となったのを契機に、松山港についてあらゆる側面から知っていたいただき、新たな利用方法を皆様と共に考えようと企画したものです。設立60年余の当所が、松山港の一〇〇年の歴史を語るにつきまして、周辺地域にお住まいの方々を始め、関係各位のご協力により、当日は四〇〇名を超えるご来場の皆様をお迎えすることができ、盛況のうちに終了しました。港湾整備に関わる当所としましては、今回のシンポジウムの成果をもとに、更に皆様に港に関心を持っていただくことを願い、港が、そして港からまちが繁栄するよう将来に向けて、事業に邁進する所存です。

またそのほか、昨シーズンは市民の皆様と共に過ごしたイベントや出前講座、現場見学会なども数えますと10本になります。特に現場見学会は私どもの業務の紹介を通じ、社会資本整備について知っていただくもので、少人数から一〇〇名を超えるお申し込みまで、ご要請いただきました皆様をご案内しました。このような機会を今後とも、可能な限り続けたいと考えております。

本年も港湾行政へのご理解とご協力のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。